

## I C Tを活用した不登校生徒の支援について

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校5年生から児童養護施設に入所しており、家族との関係が本人の精神に及ぼす影響が大きいと思われる。中学入学後、こだわりが強い部分があり、友人との付き合いの中で違和感があり、特定の曜日は登校できず、気持ちが安定せず登校を渋るという形で、徐々に学校を欠席することが増えた。

### 具体的な取組

#### ○オンラインによる個別の会話

不登校生徒と学年教員が個別にやり取りができるように、オンラインの個別の会話の場を設定し、いつでも学校と不登校生徒がチャットのやり取りをできるように整備している。担任からだけでなく、不登校生徒からも連絡ができるため、安心して学校とつながりをもつことができている。

#### ○別室登校の情報共有

不登校生徒が安心して登校し、過ごすことができるよう、校内別室を設置し、学校と家庭の連携推進事業の支援員が、質問や相談などの対応をしている。オンラインで校内別室での登校状況も随時更新され、担任も把握することができている。



#### ○学校生活アンケート

毎月、学校生活アンケートといじめに関するアンケートを隔月で実施し、いじめが疑われる回答や、不安や悩みを抱えている回答がある場合は、個別に聞き取りを行っている。学年会や生活指導部会でアンケート回答状況を確認し、組織的に生徒への効果的な支援と早期支援を促進している。

#### ○学習のフォロー

登校したときは放課後を使い、欠席のときに受けることができなかった授業の内容に教科の担当教員が短時間でポイントのレクチャーをしたり、練習問題と一緒に解いたり学習のフォローを行っている。授業の持ち物の連絡黒板の写真を撮ってクラスチームに掲載し、誰でも確認できるようにしている。

### 成果

別室登校やI C Tを活用した不登校生徒の支援により、不登校出現率を前年度の9.27%から約6ポイント減少し、3.17%とすることができた。学年教員だけでなくS S WやS Cと当該生徒、保護者がつながりをもつことができ、相談体制を充実させることができた。

### 課題

欠席していても取り組める学習教材を明確にし、家庭での取組の部分も丁寧に見取って、次の学習につなげていく必要がある。